

菅原院長がそもそも医師を志したのは、幼少期の頃。「整形外科医院を開業していた父の姿に漠然とした憧れのようなものがありました」

運動機能回復の分野に興味を持ち、整形外科医を目指す

父の医院を継ぎ、全面リニューアルで新生クリニックがスタート

東北地方の中心、岩手県の最南端に位置する一関市。人口約12万人のこの街には、狛鼻溪や厳美溪といった自然豊かな名勝地や、一関温泉郷などが有名だ。また交通の便にも恵まれ、世界遺産の「平泉」や、三陸海岸などの観光名所めぐりの起点としても位置付けられ、毎年多くの観光客が訪れる。

そんな魅力溢れる一関市で、30年以上の長きに渡り続く病院がある。それが菅原整形外科クリニックだ。一関市内はもちろん、北は奥州地区、南は宮城の県北と、遠方からも患者が訪れるなど、多くの地域住民から愛され、親しまれ、長年地域の健康を力強く支えてきた。

「子供からお年寄りまで、世代によって抱える悩みや求めるものは異なります。その中で私たちは、それぞれの世代、さらにはお一人おひとりの患者さんにとってベストな医療を提供し、皆さんの健やかな人生を応援したいと思っています」

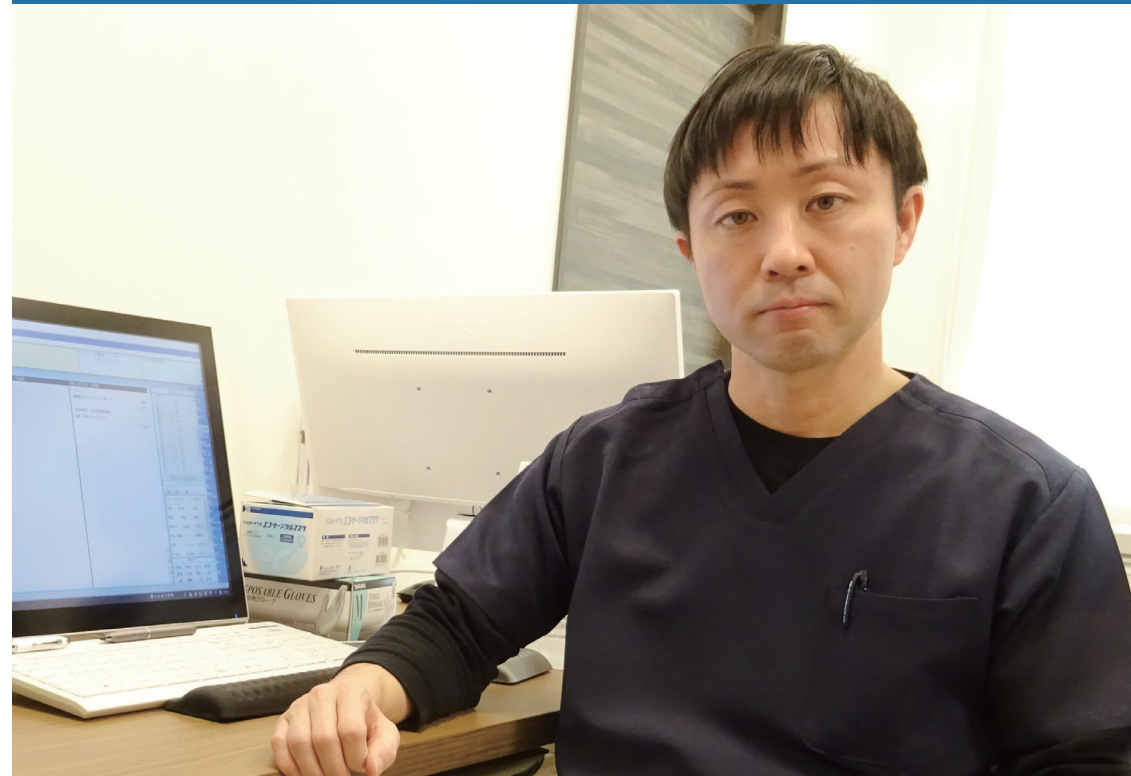
こう話すのは、菅原整形外科クリニック院長の菅原恒医師。平成31年に父親からバトンを受けて院長に就任。令和3年2月に医院も新たにリニューアルし、再出発を遂げた。

新たな医療体制で、地域住民により良い医療を届けるため、日々奮闘している地域の頼れるドクターだ。

全ての患者さんに元気になって笑顔を取り戻して頂く。それが整形外科医に求められる使命だと思います

岩手県一関市で多くの住民から愛され、親しまれる整形外科医院

運動器理学療法や先端の再生医療（PRP療法）など最新医療を提供



医療法人 菅原整形外科クリニック

院長 菅原 恒

Tomorrow's medical treatment is supported

信頼の
主治医

明日の医療を支える
信頼のドクター



令和3年2月にリニューアルした真新しいクリニック

高校生になった菅原院長は、憧れだった医師を現実的に目指すようになる。「自分の将来を考えた時、スポーツに携わり、かつ人と関われる職業に就きたいという思いに至りました。であれば、整形外科医だな」と勉強に励み、平成13年に聖マリアンナ医科大学へ入学。医者への第一歩を踏み出した。医学部入学後も、運動機能の回復という分野に興味をもつなどし、改めて整形外科医になる決意を固める。

そして平成19年3月同大学を卒業し、研修医を経て平成21年に医師キャリアをスタートさせた。菅原院長は独立するまでのおよそ12年間、数々の病院に勤務。整形外科医として経験を積み上げスキルを磨いていった。

この間には、東北地方を襲った東日本大震災も発生。震災直後の10日間は当時勤務していた病院に寝泊まりし、昼夜を分かたず医療活動に励み、懸命に患者を支えた。

「当時は生後3ヶ月の生まれただけの子供がいましたが、自宅に帰ることもできませんでした。時には自分の家庭生活を犠牲にしなければいけない。医療に従事する者の宿命だなと感じました」と振り返る。

そして平成31年4月、院長だった父の引退に伴い菅

原整形外科クリニックを引き継ぎ、菅原院長は開業医としてのスタートを切った。

「勤務医の時に実現できなかった、自分が考える理想の医療を行いたいという気持ちと、この地域に必要とされる整形外科医ができる医療を提供したかった」と、院長就任の2年前より医院の全面リニューアルに着手。

構想段階においては、秋田、仙台、愛知にある友人や先輩医師のクリニックを見学に回り、理想とするクリニックづくりの参考にした。

こうして、細部にまでこだわり、菅原院長の目指す医療を実現する新・菅原整形外科クリニックが完成した。

150㎡の広大なスペースを誇るリハビリスペースを完備

外傷、スポーツ疾患、関節リウマチなど幅広い整形外科的疾患に対応

新たなクリニックは、待合室や診察室が広く取られており、患者がゆったりと診察を受けることができ、新型コロナウイルス対策としてオゾン発生装置や自動会計機が導入されている。

医療設備に関しては、MRIや超音波、骨密度測定装置など、患者に確かな診断をつけるための最新検査機器が豊富に揃っている。

さらにクリニック最大の特徴でもあるのが、150㎡という広大なスペースのリハビリルーム。これは岩手県下の医療機関の中でも屈指の広さだという。

「当院は地方の整形外科ということもあり、専門特化というよりも何でも診るといふスタンスで医療を提供しています」

こう菅原院長がいうように、菅原整形外科クリニックでは、打撲や捻挫などの怪我から、骨折、脊椎疾患、各関節症、関節リウマチ、骨粗鬆症、スポーツ外傷など幅広い整形外科疾患に対応する。

「当院では超音波を用いて凝りや痛みをとる筋膜リリースを実施しています。また重度の骨粗鬆症に対しては、骨形成促進剤を用いるなど、積極的な治療を行っています」

骨の密度が少なくなる骨粗鬆症。主に閉経後の女性がなりやすい疾患だが、これに関して菅原院長は、「近年骨粗鬆症が原因の尻もちや少し重いものを持つなどの軽微な外力に伴う圧迫骨折患者が増えています」と警鐘を鳴らす。

「骨が弱るのは自覚症状がないため気づきにくいのですが、いくつになっても治療が可能で、きちんと治療することで骨を強くできます。健診の結果や、自分で少しでも気になるようでしたらすぐにご相談に来て頂きたいと思います」

生活の質（QOL）を高める運動器リハビリ医療を提供

「スポーツに励む子供たちのサポートにも力を注ぎたい」

リニューアル後も多くの患者が来院する菅原整形外科クリニック。そんなクリニックにおいて、今現在菅原院長が力を入れて取り組んでいるのが運動器リハビリテーションだ。

「この一関市はリハビリを提供している医療機関が少ないのです。あるのは総合病院のみで、しかもそこで行われているのは脳卒中や骨折などの手術をした後に一時的に行われる急性期リハビリが中心です」

これに対して菅原整形外科クリニックが行っているのが運動器リハビリ。手術後の急性期リハビリだけではなく、仕事や日常生活、スポーツなど、主に生活の質（QOL）を高めるためのリハビリ医療だ。

「例えば社会人の方であれば『肩の痛み、腰の痛みを治したい』、『趣味を楽しみたい』、部活動に励む学生の方なら『ケガから早く復帰したい』、そしてお年寄りの方なら『健康寿命を延ばしたい』という目的で当院の運動器リハビリを受けて頂いています」

菅原院長と理学療法士が、個々の患者の状態を正確に把握し、個別にリハビリメニューを組んで強度やペース、具体的な方法をレクチャーしてリハビリを進めていく。今は午前と午後高齢者、夕方以降は学生や社会人が主に利用しているという。

「今後は運動器リハビリの存在をもっと多くの方に知ってもらおうとともに、スポーツに励む子供たちのサポートにも力を入れていければと考えています」

「この辺りでは小学生から高校生まで色々



岩手県下のクリニックの中でも屈指の広さを誇るリハビリルーム

な部活において全国大会出場、または入賞を目指し、日々トレーニングに勤しんでいる学生が大勢います。その中で、スポーツ障害の低年齢化を懸念しています。当院でも、子供たちの怪我の早期発見、早期治療に努め、子供たちを指導する方々に対しても、スポーツ障害の予防につながる指導法の大切さを伝えていきたいと思っています」

さらに菅原院長は、怪我のリハビリ支援だけではなく、「アスレチックトレーナーの力を借りて、パフォーマンスレベルを上げるサポートも近い将来行っていきたい」と話す。「今後に向けてやらなければならないことが山積みです」と瞳を輝かせる。

再生医療の一種、PRP療法を東北地方で早期に導入

変形性膝関節症の手術を受ける前の最後の砦となる治療法

菅原整形外科クリニックでは、運動器リハビリに加え、力を入れて取り組んでいる医療がある。それがPRP療法だ。端的に言えば自分の血液（血小板）を使って自らの体を治す再生医療とも呼ばれる治療で、整形外科の分野では主に筋、腱、関節の治療に用いられる。近年注目を集めている治療法だが、東北地方ではまだ認可施設が少なく菅原整形外科クリニックでは令和1年12月に膝関節への治療で国の認可を受けて岩手県内でもいち早く導入した。

「膝の治療は、一般的にヒアルロン酸注射を行います。それで芳しくなければ、次の選択肢は手術しかありません。しかし手術は怖くてハードルが高いということで敬遠される人も多く、実際患者さんのリスクや負担は大きいものがあります。そこで手術に至る前の最後の砦という位置づけでPRP療法が注目されています」

自身の血液を採取してそこから血小板を取り出し、それを膝に注射で注入する。自身の血液からつくるため、アレルギーなどの副作用はほとんどなく受けることができる。

菅原整形外科クリニックでも、導入してまだ1年程だが、すでに多くの治療実績を残している。主に50代から80代の、膝の痛みに悩まされる患者が治療を受け、中には歩くことがほとんどままならなかった70代の患者が、PRP療法を受けてゴルフができるまでに回復した事例も。

「まだ日本では歴史の浅い治療法なので、多くの方にPRP療法の存在を知って頂き、膝治療の選択肢の一つとして考えて頂ければと思います」

大切にしているのは「患者さんのニーズをことんまで探る」こと

スタッフとの連携を高め地域で最も信頼される病院に

運動器リハビリやPRP療法など、独自の医療サービス、先進医療にチャレンジしていく菅原院長だが、こうした行動力や医療に対する情熱の原動力となっているのは患者への熱い想いだ。「全ては患者さんに元気になって笑顔を取り戻して頂くためです。それが整形外科医に求められる使命だと思いますから」

「こと話す菅原院長が、毎日の診察で大切にしていることがある。それは「患者さんのニーズをことんまで探ること」だ。

「その患者さんは検査をして欲しいのか。診断を下して欲しいのか。注射を求めているのか、あるいは薬を求めているのか。個々の患者さんによって要望というのは細かく違います。それぞれの患者さんが持つ真のニーズを引き出すための環境づくりや、密接なコミュニケーションは、

PROFILE

菅原 恒 (すがわら・こう)

昭和 55 年生まれ。岩手県出身。平成 19 年聖マリアンナ医科大学卒業。
 仙台赤十字病院初期研修。
 東北大学病院整形外科、東北労災病院、登米市立登米市民病院、JA 厚生連平鹿総合病院、JA 厚生連大曲厚生医療センター、岩手県立磐井病院を経て、平成 31 年医療法人菅原整形外科クリニック院長就任。
 日本整形外科専門医。日本整形外科学会認定リハビリテーション専門医。
 日本整形外科学会認定リウマチ専門医。

医療法人 菅原整形外科クリニック

<https://sugawara-seikeigeka-cl.com/>

INFORMATION

所在地	〒021-0023 岩手県一関市銅谷町 9-18 TEL 0191-23-0501	
アクセス	JR 一ノ関駅から徒歩 18 分	
設立	昭和 63 年	
診療科目	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科	
診療時間	月・火・木・金	8:45 ~ 11:45 13:45 ~ 17:45
	水・土	8:45 ~ 11:45
	休診日	第 3 水曜日、日・祝日



治療内容
 外傷、骨折、脊椎疾患、神経性疼痛、肩関節疾患、肘関節疾患、手関節疾患、股関節疾患、膝関節疾患、足関節疾患、腱鞘炎、肩こり、スポーツ整形、関節リウマチ、骨粗鬆症、理学療法



患者ファーストの姿勢をスタッフ一同で徹底していく

診察で私がおもっても大切にしている部分です」
 決して医療を押し付けることはしない。数ある選択肢の中から最終的には患者に選んでもらう。そうした患者ファーストの姿勢を菅原院長、さらにはここで働くスタッフ一同で徹底している。
 また、患者により良い医療を提供するために、菅原院長は、スタッフ同士の連携やチームワークの大切さを強調する。
 「理学療法士や看護師、事務スタッフ、そして医師。みんなが切磋琢磨して成長していく、この一関で整形外科といえば『菅原整形外科クリニック』と多くの人たちに一番にいつてもらえるような、信頼されるクリニックをつくっていききたいですね」
 飽くなき向上心と人一倍の行動力、そしてたゆまぬチャレンジ精神で、菅原院長は岩手県一関の地域医療に貢献していく。